第 1 章 「淡山疏水」とは

疏水（「疎水」とも表記されます。）とは、河川などを水源としてかんがい※1、給水、舟運、発電のために、あるいは排水のために、新たに土地を切り開いて通水させること及びその人工水路をいいます。

水に恵まれず、かんがいに苦労していたいなみ野※2台地の村々では、江戸時代明和年間（1764 年～ 1772 年）に先人が山田川疏水の着想を得ましたが着工に至りませんでした。これに続く人たちが大変な苦労を重ね、明治時代（1868 年～ 1912 年）に淡河川疏水を開削し、大正時代（1912 年～ 1926 年）に山田川疏水を開削しました。淡河川疏水は加古川水系の淡河川から取水しています。山田川疏水は同水系の志染川上流部（別名「山田川」）※3から取水していましたが、東播用水が完成してからは、大川瀬導水路から用水を受けるようになりました。

これら二つの疏水は一つのものとして「淡河川山田川疏水」と名付けられ、今日、この疏水を受け継ぐ人々は親しみを込めて「淡山疏水」と称しています。また淡山疏水の水が潤す地域を「淡山地域」、淡山疏水を管理する兵庫県淡河川山田川土地改良区※4を「淡山土地改良区」と称しています。

本誌においてもこれに倣い、淡山疏水、淡山地域、淡山土地改良区を用います。

当初の淡河川疏水幹線水路

当初の山田頭首工※5

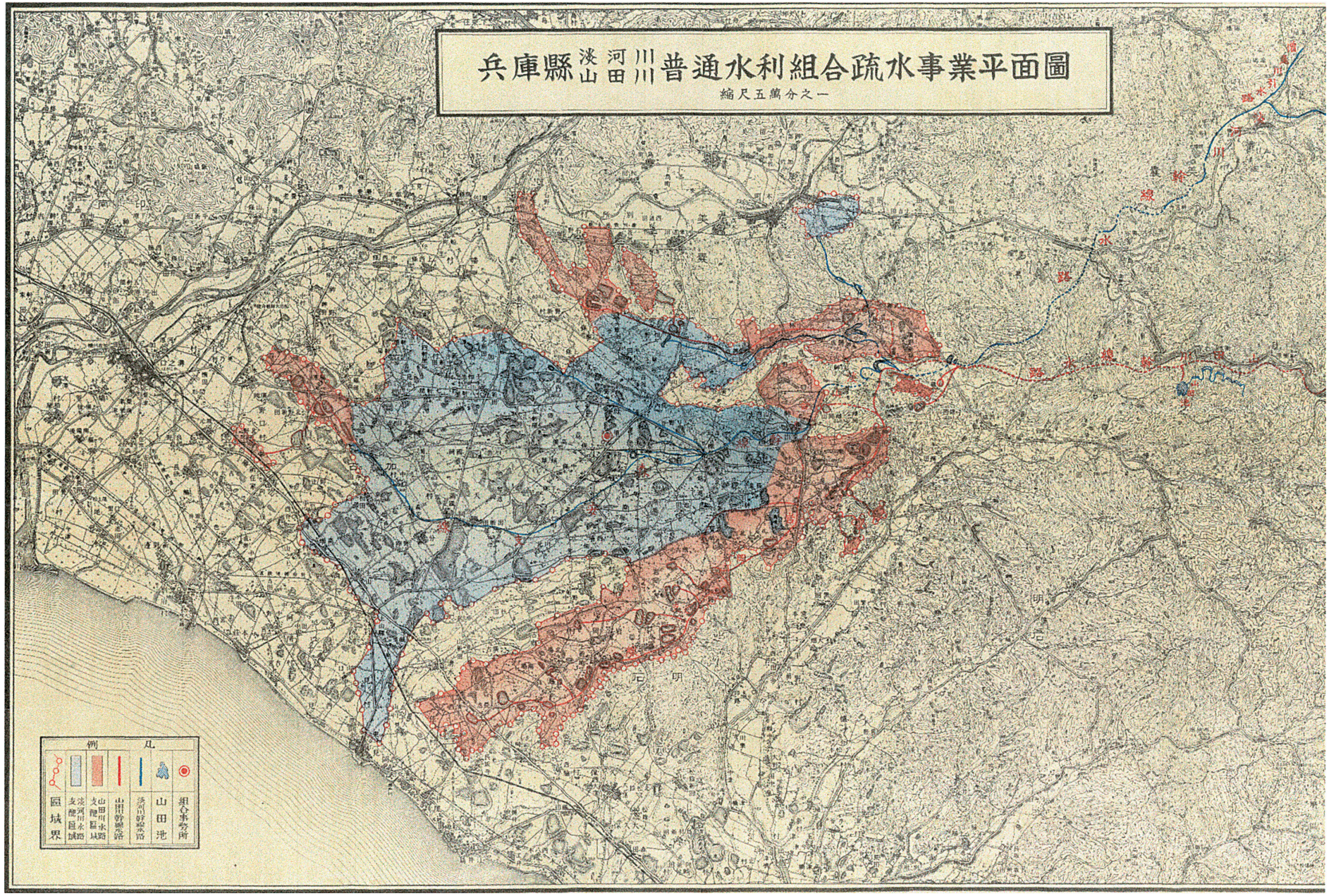
かんがい※1：農地に人工的に水を供給することです。

いなみ野※2：印南野台地及びその周辺は古くは伊奈美などとも表記されていましたが、現在この地域の多くの人々が「いなみ野」と表記しています。

別名「山田川」※3：志染川上流の箕谷川合流地点（神戸市北区山田町下谷上）から淡河川合流地点（三木市志染町御坂）までの区間は、かつて山田川と呼ばれていました。

土地改良区※4：農地、ダム、水路，農道などの整備と維持管理などを行うために、関係農地の耕作者等が知事の認可を得て設立する団体です。

頭首工※5：河川などから用水を水路に引き入れる施設です。主に取水堰と取水口で構成されており、用水路の「頭首」にあたる工作物であることからこの名称が用いられています。


兵庫縣淡河川山田川普通水利組合疏水事業平面圖
縮尺五萬分之一
凡例
組合事務所
山田池
淡河川幹線水路
山田川幹線水路
淡河川水路支線區域
山田川水路支線區域
區域界